

# インターネット研究現場からの便り

砂原 秀樹

奈良先端科学技術大学院大学教授 / WIDE ボードメンバー

**我**々が進めている WIDE プロジェクトの「WIDE」は、「Widely Integrated Distributed Environment (大規模広域統合分散コンピューティング環境)」の略ということになっている。最初の 3 文字は少し「こじつけ」の感もあるが、最後の 1 文字が表す「Environment」つまり「環境」の部分には、我々なりのこだわりがある。今回は、そのあたりをお話しよう。

## Letter #15 「環境」としてのネットワークへ



公式には、WIDE プロジェクトは 1988 年にスタートしたことに  
なっているが、その基盤となる活動はそれ以前から行われてい  
た。それは UNIX というオペレーティングシステムを中心とした  
人々のつながりであった。UNIX は、プロフェッショナルが使う  
道具として、使いやすくなるように自由にカスタマイズできる  
という点が重要なものだった。このように、自分に合わせて「  
チューニング」したものを、当時我々は「環境」という言葉で表  
現していた。たとえば、1986 年に慶應義塾大学の村井純らと  
ともに書いた『プロフェッショナル UNIX』という本には、「シ  
ステム環境」「生活環境」「ソフトウェア開発環境」とい  
った言葉が登場する。これを見るととても好んで使ってい  
た言葉だということになる。

当時考えていたことで今にも通じることは、「自分たちが  
使うものとして何を作ってどう使えばいいだろうか?」とい  
うことである。この「自分たちが使うために作ったもの」  
を称して「環境」と呼んでいたように思う。ここには、  
それを使う「人」あるいはそれを受け入れる「社会」が  
それを評価するということが含まれる。コンピュータを使う  
ために「人」が苦勞して学ぶのではなく、コンピュータが  
「人」のためにどれだけ役に立てるかということである。

当初はさまざまな意見があったが、こうした信念に基づ  
いてやってきたことで「インターネット」はたくさんの「  
人」が使うようになり、「社会」に受け入れられたのだと思  
う。

1986 年から 20 年が経過し、「インターネット」を作る  
ことは一段落したのではないかと考えている。当然、この  
連載でも書いてきたように、解くべき問題や改善すべき課  
題は多数ある。しかし、「人」と「社会」の評価という  
意味においては 1 つの段階を迎えたといえるだろう。今、  
我々は次に何をすべきかということ

を考え始めている。そこで原点に戻って「環境」という  
言葉が鍵となってきているのである。

「環境」という言葉を使い出したころ、「あれ? 公害の  
研究をしているの?」などといわれたりしたが、イン  
ターネットが「世界を覆う網」となった今、そこから  
得られて流通する情報環境は自然環境に匹敵するもの  
となったといえるだろう。当然これらを考える際に  
前提となる条件も変化している。コンピュータの性能  
は、一昔前のスーパーコンピュータをはるかに超え、  
通信速度も 10Gbps というものが登場している。無  
線通信メディアも利用の仕方を大きく変えるであら  
う。こういう中で「我々は何をしたのか?」とい  
うことが今重要なのである。

インターネットの構造はこれでいいのか、ID はど  
れぐらいの空間が必要なのか、何に ID を与えるべき  
なのか、そもそも 1 対 1 通信でいいのか、「人」は  
どうやってこうした「環境」を使うのであろうか、  
「社会」としてこの「環境」はどうあるべきなの  
か、今我々はさまざまなことを議論している。当  
然こうした議論は我々だけのものではなく、みな  
さんにもかかわるものである。だからこそ、我々  
が次に何をするかについて注目していただくだけ  
でなく、みなさんもこの「考え、作る」作業に参  
加していただければと思う。だれもが参加でき  
るのがインターネットの良いところ。「なんで  
こんなことができないの?」とか「どうして  
こんな風になってしまっているの?」と思  
ったら、それはいいきっかけといえる  
だろう。

まだ終わったわけではない。次の段階へ進もうではないか。

WIDE プロジェクト

<http://www.wide.ad.jp/>



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)